March 2019

千里地理通信

伊東理教授退職記念特別号

関西大学地理学研究会会報　第 80 号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1～2 ·····
退職するにあたって
－大学生活の回顧と御礼－　伊東　理
Page 2～3 ·····
履歴，研究業績と小文
Page 4～6 ·····
教員から
先進国都市圏の現在を逍遥する伊東先生　野間晴雄
いとやさし　木庭元晴
伊東先生の教え　松井幸一
Page 7～11 ·····
教え子から
伊東先生の思い出　立見淳哉
拝啓，伊東理先生　本岡拓哉
伊東理先生のおかげです　片上廣子
大阪のお父さん　伊東先生へ　ポテラ水上洋子
井の中の蛙，大海を知らず　吉兼崇博
いつも紳士的な伊東先生　舟越寿尚
伊東先生への感謝　松原光也
忘れられない言葉　飯野茉尋
伊東先生の口癖　齋藤鮎子
午後の紅茶　松井幸枝
伊東先生へ　栗林　梓
伊東先生との思い出　平内雄真
伊東先生へのメッセージ　三村芽依
教養の先生－某授業の最後のあたりの週での座談会－　松川昭太朗
最後のゼミ生として　張　顥知
Page 12 ·····
同窓会通信
関西大学回想　瀬原雅典
同窓会事務局ニュース
Page 13 ·····
秋の日帰り巡検報告
猪名川周辺の探索と池田市を歩く　天野　奏
Page 14 ·····
実習調査報告
富山県高岡市での実習調査　大浦　拓
Page 15 ·····
大学院生の研究業績（2018 年1 月～12 月）
Page 16 ·····
ハノイ理科大学地理学部学生の関西大学でのフィールドワーク研修　グエン･ティ･ハータイン，齋藤鮎子
Page 17 ·····
教室だより
Page 18 ·····
随想
インターネットでみる古地図　山近博義
Page 13～15 ·····
卒業生・修了生からのひと言

退職するにあたって
－大学生活の回顧と御礼－

伊東　理

バーミンガムにて（2017 年）

私の人生を振り返ると，多くの人にお世話になり，そして偶然と強運に恵まれて今日を迎えられたものだと思います。元々生物（昆虫）と地理に関心があり，大学でどちらの道に進むかを決めかねていましたので，現役時の第 1 志望校は入学してから進路が選択できる東京教育大学（現筑波大学）理学部でしたが，その年には東大とともに入試はありませんでした。もしあの時，東京教育大学で入試があり合格していれば，恐らくは生物系の道に進んだものと思います。翌年京都大学文学部に入学して地理学を専攻しましたが，大学の 4 年間は授業がわずかしかなく，もっぱら旅行とテニスに明け暮れました。就職も考えましたが，大学で少しは勉強しようと決意して進学した大学院では，よき先生，先輩諸氏に恵まれて，充実した日々を過ごすことになりました。

1978 年に鳥取大学教養部に講師採用され，27 歳から私の大学教員生活が始まりました。鳥大では先輩の先生方から大学人としてのあり方や作法，大学自治の基本などを学ばせていただきました。担当授業は全学部の学生が対象の一般教育「人文地理学」の講義 3 コマと大学入門ゼミ 1 コマでした。学生との触れ合いはわずかでしたが，京都市生まれの私には，めりはりの効いた季節感のある日本海側の地方都市での暮らしは新鮮かつ貴重な経験でした。鳥大に 9 年間勤めた後に，突然のお誘いに応え帝塚山大学教養学部に転出して，11 年間勤めました。帝塚山では海外に出る機会を多く得ることができましたので，研究面では日本をフィールドとした研究から，欧米大都市圏をフィールドとする研究へとシフトすることとなりました。また，教育面では鳥大ではできなかった学生のゼミ指導や真面目な学生を大学院に送ることが楽しみとなりました。以上のような高校卒業から帝塚山までの歩みは，多くの方々に助けられ，偶然と幸運にも恵まれて，比較的順境にて進んだように思います。ただ，それぞれの分岐点で何か一つでも異なった選択をするか，あるいは何かちょっとでも歯車が狂っていたら，間違いなく異なった人生を歩むことになったものと思います。

そして 1998 年に関西大学に採用されて，関大で大学教員生活後半の 21 年間を過ごしてきました。教員生活前半の 20 年間は一人マイペースで好きなように振舞える立場でしたが，大教室での最初の数年間は大幅に増えた日々の仕事をただただ懸命にこなすだけで過ぎていきました。慣れるにつれて，教室を運営，維持，発展していく責任や重圧を感じることになりましたが，何分私は多忙で目まぐるしい方が好きな性分ですので，関大地理学・地域環境学教室で精一杯の日々を総じて楽しく過ごさせていただけたものと喜んでいます。関大での 21 年は随分と早く過ぎましたが，教員生活の前半とは比べものにならないほどに多くのことに遭遇するとともに，得られたものも大きかったと思います。以下，関大での教育と私の研究に関して，少々書かせてもらいます。

教育では，鳥大以来一貫して担当してきた一般（共通）教育科目「人文地理学［を学ぶ］」を講義し，また学部，大学院では主に実習と演習を担当してきました。一番楽しかった授業科目は，3 回生の実習調査でした。調査地の選定，役所や関係機関への調査依頼と折衝，現地調査，調査報告書の作成など，結構手間のかかるハードな仕事ですが，多くの学生諸君が調査を通じ成長する姿がみられたことや頑張った学生たちと共に味わう報告書完成時の達成感は格別でした。とりわけ関大に来た年に担当した豊岡・出石調査は最も思い出深い実習調査となっています。また，いわゆる「教養畑」を長く生きてきた私にとっては，何といっても一般教育の「人文地理学」は大切にしてきた科目です。多くの大学生にとって，この授業は現代の地理学を知ってもらうラストチャンスとなるので，

地理学のファンを増やしたいと願って，長年意欲的に教えてきた授業です。受講生から，「今までの地理学のイメージ（≒「地域差の地理学」）が一変しました。地理って案外面白いですね。」などと言われた時には，わが意が通じたと，嬉しくなりました。学部演習，大学院演習では，学生の多様な関心に応じるため，専門外のことも結構勉強させてもらいました。学部の演習では，各学生が興味あることを学び，研究してもらう手助けをしようと心がけて臨んできました。一方，大学院演習では，地理のプロを育てるのが仕事と考え，各院生の学問的成長と幸福な将来を願って，かなり厳しいことも言ってきました。しかし，ゼミ出身者のなかには現在音信不通となった院生もおられることや私のゼミから正規の大学教員や研究所員を未だ育てられていないことは，申し訳なくもあり，悔いも残っています。

研究面では，大学院でのスーパーの研究（小売商業の郊外化研究）に始まり，マイペースで折々に関心をもったことを牛歩にて研究してきました。そのなかで一番心血を注いだのはイギリスの小売商業の地理学研究で，それは第二次世界大戦以降のイギリス都市圏の小売商業の地域的展開について，プランニングの問題や小売商業政策の変遷，大規模小売商業施設の展開，都市地域構造や消費者購買行動の変化などを射程に入れて，長期的かつ多面的に調査，研究してきたものです（拙著『イギリスの小売商業　計画・開発・都市－地理学からのアプローチ－』，関西大学出版部）。そのほか，日本の小売商業の地域構造に関する研究，アメリカの大都市圏の人口・産業に関する研究，ニュージーランドオークランド市の都市誌に関する研究などをしてきました。こうした研究テーマを羅列すると，一見支離滅裂のようにみえるかもしれませんが，私の意識のなかでは「第二次世界大戦後以降の世界の先進国大都市圏の人口，産業の変動に関する研究」という大枠で括っているつもりです。実際のフィールドで見聞した地域や事象に対する感覚や疑問を研究の出発点にして，設定した研究課題に関して自分なりに納得できる結果が得られたら，別の関心あるテーマに移っていく，といった研究スタイルを続けてきたものです。どの研究もそれぞれ苦楽がありましたが，いずれの研究にも愛着があり，懐かしいものばかりです。今しばらくはオークランドの研究にこだわりたいと思います。

今日まで大過なくかつ幸せな人生を送ることができました。これもひとえに巡り会えた皆様方のお力添えと学生諸君から得たパワーのお蔭であり，また時代にも恵まれた結果だと痛感しています。最後に，お世話になりました各位および卒業生，在校生諸君のご多幸とご発展を祈願致しますとともに，皆様方から頂いてきましたご厚情に対して，深謝申し上げる次第です。長きにわたり，誠に有難うございました。　（いとう　おさむ：本学名誉教授）

履　　歴

伊東　理（いとう　おさむ）
生年月日：1951（昭和 26）年 1 月 3 日
専門分野：人文地理学・都市地理学
現住所：〒619-0223　木津川市相楽台 9 丁目 15-28
電話 0774-71-0507

学　歴

1966. 4. 1（入学）～1969. 3. 31（卒業）
京都府立鴨沂高等学校
1970. 4. 1（入学）～1974. 3. 31（卒業）
京都大学文学部史学科（人文地理学専攻）
1974. 4. 1（入学）～1977. 3. 31（修了）
京都大学大学院文学研究科・地理学専攻修士課程
1977. 4. 1（入学）～1978. 3. 31（中退）
京都大学大学院文学研究科・地理学専攻博士後期課程

職　歴

1978. 4. 1～1982. 3. 31　鳥取大学専任講師（教養部）
1982. 4. 1～1987. 3. 31　鳥取大学助教授（教養部）
1987. 4. 1～1994. 3. 31　帝塚山大学助教授（教養学部）
1994. 4. 1～1998. 3. 31　帝塚山大学教授（教養学部）
1998. 4. 1～2018. 3. 31　関西大学教授（文学部）名誉教授を授与
2018. 4. 1～2019. 3. 31　関西大学特別契約教授（文学部）

非常勤講師歴

京都大学（教養部，総合人間学部，文学部・大学院文学研究科），大阪市立大学（文学部・大学院文学研究科），関西学院大学（文学部）大阪大学（文学部・大学院文学研究科），奈良女子大学（文学部・大学院文学研究科），奈良大学（文学部・大学院文学研究科），和歌山大学（教育学部），滋賀大学（教育学部），鳥取大学（地域学部），立命館大学（文学部）

在外研究

1992. 4. 1～1993. 3. 31　英国ニューカッスル・アポン・タイン大学・リーズ大学，アメリカ合衆国ジョージア州立大学へ留学
2006. 4. 1～2007. 3. 31　英国リーズ大学，ニュージーランドのカンタベリー大学，オーストラリアのメルボルン工科大学へ留学

学　位

1977. 3. 31　京都大学　文学修士
「大型小売商業施設の地域的展開　－京阪神大都市圏を事例として－」
2006. 3. 31　博士（文学）関西大学「先進国における小売商業の地域的展開　－大規模小売商業施設の立地展開と地域政策に着目して－」

受　賞

1983. 3. 16　日ノ丸報恩会科学研究奨励賞（鳥取日ノ丸財団）
2012. 11. 17　第 12 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）

役職・委員等（大学，学会，社会）

関西大学：就職主事，関西大学文学部学生相談主事，関西大学協議員
学会：人文地理学会（評議員，文献目編集作成委員会委員長，編集理事，理事，監事），経済地理学会（幹事），日本地理学会，地理科学学会，関西大学史学地理学会
公的機関：鳥取県中小企業組織化事業推進委員会委員長，八尾市産業振興ビジョン策定委員会委員・商業・サービス業部会長，茨木市史編さん委員，日本学術振興会（特別研究等審査会専門委員・国際事業委員会書面審査員）

主たる海外での調査研究

イギリス，アメリカ合衆国，オーストラリア，ニュージーランド

研究業績と小文

〈著書〉

『イギリスの小売商業　政策・開発・都市－地理学からのアプローチ－』単著　関西大学出版部　2011年，全360頁
第1篇　イギリス小売商業活動の特徴と研究課題（第1章　イギリス小売商業政策の特徴と小売商業開発，第2章　イギリスにおける小売商業の地域的動向と研究課題），第2編　イギリス小売商業の地域政策の展開と小売商業開発（第3章　1980年以前の小売商業の地域政策と小売商業開発　－地域計画政策の展開と小売商業地区の開発－，第4章　1980年代の小売商業の地域政策と小売商業開発　－サッチャー政権下での展開－，第5章　1990年代以降の小売商業の地域政策と小売商業開発　－地域計画政策の転換と小売商業の展開－），第3編　シティセンターの再生とシティセンターリテイリングの動向（第6章　シティセンターの動向とその再生　－1990年代以降のコアシティを中心に－，第7章　ニューカッスル市の中心商業地区＝シティセンターの展開，第8章　バーミンガム市のシティセンターの再生），第4編　小規模小売商業地区の動向と小売商業の地域政策（第9章　小規模小売商業地の動向とその再生　－1990年代以降を中心に－，第10章　カーディフ市におけるアウトオブセンター立地型小売商業施設の発展と小売商業の地域システムの動向，第11章　ニューカッスル市におけるローカルショッピング政策と小売商業地区の展開）

〈編著〉

『図説　アジア・オセアニアの都市と観光』古今書院，2013年，（編者：寺阪昭信・伊東理）編，全139頁）
『図説地理　近現代の茨木（新修茨木市史史料集17）』，2013年

〈テキスト，一般書〉

鳥取県砂丘地の農業開発と砂丘地農業（大明堂編集部編『新日本地誌ゼミナール6　中国・四国地方』大明堂，1987年）
小売商業の立地と展開，都市システム（橋本征治編『人文地理学の広場』原書房，2004年）
城下町から県庁都市へ－鳥取市－（平岡昭利編『地図で読む百年－中国・四国－』古今書院，1999年）
宗教都市と製材の街－天理市・桜井市－（平岡昭利・野間晴雄編『地図で読む百年－近畿Ⅰ－』古今書院，2006年）
イギリス都市圏における小売業の立地動向（富田和暁・藤井正編『新版　図説大都市圏』古今書院，2010年）
バーミンガム市のシティセンターの再生（阿部和俊編『都市の景観地理－イギリス・北アメリカ・オーストラリア編－』古今書院，2010年）

〈学術論文〉　＊上記著書に収録されていない論文

各地の小売商業 ――――――――――――――――――――――――――――――――
西ヨーロッパの大規模小売商業施設に関する研究ノート（水津一朗先生退官記念事業会編『人文地理学の視圏』大明堂，1986年）
都市内部における小売商業の立地と小売商業の地域構造（西村睦男・森川洋編『中心地研究の展開』大明堂，1986年）
わが国におけるスーパーの発展過程，『日本都市学会年報』，12巻，1978年
大都市圏におけるスーパーの展開と立地－京阪神大都市圏の場合－，『人文地理』30巻6号，1978年
京都市における小売商業の分布とその動向，『鳥取大学教養部紀要』15巻，1981年
大都市における小売商業の分布と地域構造－福岡・札幌市の比較考察－，『地理学評論』，1982年
鳥取市における小売商業の地域構造と消費者購買行動，『鳥取大学教養部紀要』20巻，1986年
沖縄共同店に関するノート（森隆男編『住まいと集落が語る風土－日本・琉球・朝鮮－』関西大学出版部，2014年）

アメリカ合衆国大都市圏 ――――――――――――――――――――――――――――
アトランタ大都市圏の発展と郊外化，『地理』39巻7号，1994年
アトランタ大都市圏における人口の地域的動向－1970年代以降を中心に－，『帝塚山大学教養学部紀要』38輯，1994年
アメリカ合衆国におけるショッピングセンターの発達とその地域的展開，『帝塚山大学経済経営研究』，3巻，1995年
近年のアメリカ大都市圏における人口・雇用の動向，『関西大学文学論集』54巻2号，2004年（伊東理・樋口忠成・富田和暁・藤井正 共著）
アメリカ合衆国大都市圏の人口動向に関する地域的考察－1970年代以降の中心市と郊外の分析を中心に－，『大阪産業大学論集　人文・社会科学編』24号，2015年（樋口忠成・堀内千加・伊東理 共著）

イギリス大都市圏 ――――――――――――――――――――――――――――――――
バーミンガム市におけるローカルセンターの再生の関する地域政策の展開－1990年代後半以降を中心に－，『関西大学文学論集』61巻3号，2011年
ウエスト・ミッドランズ大都市圏の人口動向と居住の地域構造，『関西大学文学論集』66巻3号，2016年，（伊東理・堀内千加 共著）
イギリス中心市街地の開発・再生の歴史－第二次世界大戦以降のシティセンターの展開－，（根田克彦編著『まちづくりのための中心市街地活性化－イギリスと日本の実習研究－』，古今書院，2016年）

ニュージーランド大都市圏 ――――――――――――――――――――――――――――
スーパーシテイ・オークランド市の成立と「オークランドプラン」（Ⅰ）－オークランド大都市圏行政の展開とスーパーシティの成立－，『関西大学文学論集』62巻3号，2012年
スーパーシテイ・オークランド市の成立と「オークランドプラン」（Ⅱ）－「オークランドプラン」の検討－，『関西大学文学論集』63巻3号，2013年
1990年代以降のオークランド大都市圏の人口動向と居住の地域構造，『関西大学文学論集』68巻3号，2018年（伊東理・堀内千加 共著）

その他 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――
PPG 6「タウンセンターと小売商業施設の開発」（1996年改訂版）について－資料の概要と資料の翻訳－，『帝塚山論集』88号，1998年
サンボーンの都市の「火災保険地図」『関西大学図書館フォーラム』11号，2006年

〈エッセー〉

『千里地理通信』（関西大学地理学研究会）
1998：日本海地域とパン，そしてお願い（40号）
1999：「ロバのパン」の不思議（41号）
2002：私のお気に入り Newcastle upon Tyne（46号）
2005：なぜか違うのです（52号）
2007：オセアニア都市の印象（57号）
2009：橋本先生とご一緒して（60号）
2010：ガーデン・ガーデニング（62号）
2012：ニュージーランド　オークランド市が面白い（67号）
2014：高橋先生・高橋さんのこと（71号）
2016：イギリスのバス事情とその魅力（74号）
2019：退職するにあたって　－大学生活の回顧と御礼－（80号）

『百材』（関西大学史学地理学同窓会）
2007：在外研究を振り返って（43号）

『冬の花火　高橋誠一先生の思い出と足跡』
2015：高橋さんとの想い出三つ

先進国都市圏の現在を逍遥する伊東先生

野間　晴雄

伊東先生の青春は，京都御所の東を限る寺町通りから，鴨川を挟んで吉田山の範囲でほぼ完結する。自宅から近衛中学，鴨沂高校，京都大学とすべて徒歩圏内にあった。床が抜け落ちそうな吉田寮の廊下を突き抜け，京都大学楽友会館との路地（ろうじ）から近衛通りを越えればそこが自宅。昼ご飯を食べ，また講義に教室にもどる恵まれた環境にあった。生粋の京都人であるが，いけずではない。笑顔でいつも語りかけ，たまに学生に落とす爆弾も悔恨を残さない。じつに潔い。今は南山城の奈良県境のニュータウンに居を構えて北摂の関西大学まで2時間近くかけて電車で通われる。鳥取大学時代も職住近接であったから，関大時代は初めての長距離通勤と郊外居住の実感を楽しんだという。

1951年の早生まれ，団塊世代のしんがりである。京大での学部・大学院時代は，日本の地理学界に欧米地理学の革新の波が怒濤となって襲来していた。その流れに先生は半分のったが，飲み込まれることはなかった。計量分析とモデル演繹指向のうち，前者にのみ与し，実証の説得強化をめざされた。修士論文は京阪神大都市圏におけるスーパーマーケットの展開と立地で，学界でスーパーを大都市圏と最初に関係づけた記念碑的論文でもある（1978）。通産省の「大規模小売店舗の都市別概況」と『日本スーパーマーケット年鑑』をもとに，市街化連担地区，衛星都市域，外縁部の3地帯，鉄道沿線別のセクター別分析から，衣料スーパー，総合スーパー，SC型（大規模駐車場，テナント部門をもつショッピングセンター）への展開を大都市圏で位置づけられた。さらに福岡市と札幌市が独自に国勢調査区単位で集計した商業統計から，因子分析・主成分分析など手法で，小売商業の業種パターンの類型化と地域構造を比較し，スーパーは小売業の郊外化を促進する機能であることを実証された（1982）。

この2論文の真面目は，自分の足で役場や関係機関を訪問して一見すると無味乾燥にみえる膨大な統計や行政の報告書の山から，独自の嗅覚で「これ」という1つを見いだし，それを空間的視点で分析し，法則性や納得いく類型を見いだした点にある。美しい蝶蝶を追い求めた幼少期の執念が，こんなところに活かされているのかもしれない。

若き日の愛称「スーパーの伊東」は，帝塚山大学に移籍後，関心はスーパーの発祥地アメリカにむかう。アトランタ大都市圏の郊外化やSCの発達を扱い，畏友，樋口忠成先生（大阪産業大学名誉教授）運転のレンタカーでアメリカの都市を広く見てまわられた。藤井正教授（鳥取大学）との公私にわたる長いつき合いのきっかけともなる。

そして2度の在外研究を過ごしたイギリスにいたる。リーズ，バーミンガム，ニューカッスル，カーディフなどのイギリス大都市圏を対象に，小売商業の地域的展開と都市政策を，多くの行政報告書の渉猟とまち歩きの体感でまとめられた定性的研究である。これが2006年に関西大学に出された学位論文の後半部にあたる。それが著書として結実，2012年には人文地理学会学会賞を受賞される。イギリスのシティセンターはふつう都市圏最大都市の中心地区を意味する。賑わいがあり，まちなみは美しい。

市街地の所有権は私有であっても開発権は公共に帰属し，政府が公共の利益に則して開発および土地利用を規制しているからとする。日本で地方都市の中心市街地地区といえば，人影の途絶えたシャッター通りを思い浮かべる。イギリスの都市政策は日本に比べるとうまくいっているという先生の評価である。その要因を，外側に位置するインナーシティとの一体的開発政策，小売業を産業活動よりは生活インフラで考える視点に求める。そうなると，現代イギリスのシティセンターは従来の範囲を大きく超えた広域概念となる。こういう用語の定義を，実態に即してしっかり行う。ここに伊東都市地理学の真骨頂がある。学生には足で歩き見ることを勧めながら，ことさら自分の所作は誇示しない。しかしSCでの日英米における買い物行動の差異には，「なぜか違うのです」という直感や心性も大切にされる（千里地理通信52号，2005）。「言説の自己流解釈学」の対極にある，本質を資料と体感から求道する謙虚な姿勢がそこにある。

ここ数年，先生はオセアニアの都市，とりわけニュージーランドのオークランド大都市圏を精力的に回られている。欧米以上に先住民やアジア系が優勢な複雑な民族構成だが，コンフリクトは意外に少ないという。その実証を，人口と居住の地域構造として，愛弟子の堀内千加さんの手を借りて分析されている。かつて多民族集団がひしめくデトロイトやシカゴで因子生態学として一世を風靡した手法である（2018）。グローバルで新たな局面にある大都市圏比較の旅はまだしばらく続くだろう。

昨年12月1日に関西大学史学地理学会での講演「私の研究流儀とフィールドワーク」で述べられた「実体験できる研究はすぐ陳腐化する」ことを前提に，時間軸，傾向を見据えながら一定期間研究し，「基本的に自己納得したら，次のテーマ・フィールドへ」移る。その思い切りと段取りのよさは，地理学文献目録の編集委員長というだれも二の足を踏む学会の面倒で地味な仕事を完遂された力にも相通じる。この号が刊行されている頃には個人研究室の蔵書や備品はすっかり片付けられて，次に来る教員へバトンタッチされていることだろう。21年間ご苦労様でした。

（のま　はるお：本学教授）

■ □教員から□ ■

いとやさし

木庭　元晴

数年前，日本地理学会で演壇に立ったら伊東先生，松井幸一さん，齋藤鮎子さんが居た。にこにこ。この時の発表テーマは，古代飛鳥の測量法の復元であった。さらに一昨年，初めて人文地理学会で演題に立ったら，にこにこと伊東先生が座って居られた。発表後には，伊東先生が歩きましょうと誘って頂いて，京大キャンパスから吉田山，そして真如堂本坊前へ。ここに掲載した写真は，紅葉真っ盛りの三重塔の前でのツーショットである。一浪しても自分の不甲斐なさに泣いて以来の吉田山であった。真如堂からタクシーで今風の活性化が進む三条通りをご案内頂いた。ちなみにこの時の発表テーマを軸に『飛鳥藤原京の山河意匠』を出版した。いずれの発表も伊東先生に関心を持ってもらったものである。

伊東先生と（京都・真如堂）

遡って，高橋誠一先生ご存命中，ぼくは何かを告げるために高橋先生の個人研究室を訪ねた。二人だけで相談したかった。その中味は覚えていないが，まだ話す前から木庭さん怖いとか言って，高橋先生が伊東先生に来てもらうとおっしゃって内線電話を始められた。ぼくとしては凄く驚いて早々に引き上げた。伊東先生への信頼が深いことはまあ分かったのではあったが，高橋先生の思いが理解できず，いまなお非常に残念に思っている。

さらに遡って。ぼくが関大に招聘された1984年のこと。山崎教授の看板がある個人研究室に入って，愕然とした。前任の山崎壽雄先生の資料類が本棚にそのままになっている。在職中に亡くなって奥様が教室に託されたようで，亡くなって二年間，そのままになっていた。まずは捨てるものと教室に保管するものに分けるのが大変だった。山崎先生は農林水産省の役人で土地分類図などの企画責任者などを歴任され，山口大学を経て関西大学地理学教室に来られた最初の自然地理学担当者であった。思いが詰まった資料を捨てきれなかった。そういうことを伊東先生に以前，お話ししたかも知れない。

つい最近，伊東先生からぼくの無神経ぶりを証明するご体験をお聞きした。伊東先生は，地理学教室創始者末尾至行先生のご後任であった。ぼくは関大赴任以来，毎年のように海外調査に出かけていた。伊東先生が入る予定の木庭の部屋は全く木庭の資料で一杯であった，そうな。末尾先生の個研は棟の端にあって少し他の個人研究室より広かった。末尾先生が木庭君は荷物が多いから，ぼくの部屋に移りなさいと言われていた。にもかかわらず，木庭は引っ越していなかったのである。この文を書いている今考えてみると，ぼくが海外に発つ前には末尾先生の部屋は空いていなかった。それで引っ越せなかった。その先に思いが及ばないのがぼくである。伊東先生が大荷物を持って引っ越してきたら，部屋にはぼくの荷物が一杯で入れなかった，ということになった。

伊東先生は68歳でのいわば早期退職を決断された。ぼくは70歳での退職予定なので二年早い退職である。その決断の過程はわからない。わからないが十分の展望を持ってのことだと思う。そしてこのたびのご退職のカウントダウンの道筋をしっかりと立ててこられた。今回のご退職記念論文集もその一環である。伊東先生の直接指導した学生だけでなくその周辺の卒業生や院生にも発表機会を提供するという意図で計画実行された。このほど出た文学論集もその一環と思われる。周辺の人々を支えたいという気持ちの表れである。

いま，つくづくぼくとの違いを感じている。そういう生き方をぼくはしてこなかった。今頃そんなことを言っても後の祭りである。この文は，伊東先生のほんの一部しか見ていない者の戯言ではある。とはいえ，共通するものもある。伊東先生もぼくもべ平連またはベ平連活動の参画者であった。

（こば　もとはる：本学名誉教授）

伊東先生の教え

松井　幸一

私が学部生だった頃の伊東先生の印象は常ににこにこした優しい先生であった。授業こそ受ける機会はなかったが，教室行事ではいつも優しい先生だと感じていた。そんな先生が4月の専修オリエンテーションでいつも決まって仰っていた言葉がある。それは「人間変わろうと思えばいつでも変われる，変わろうと思う人は今この時から変わりましょう」というような内容であった。学部生の頃の私は決して真面目でなく，授業もよく休んでいたので毎年，4月になってこの言葉を聞くたびに今年こそはと反省していた。結局，学部ではあまり変わることができずに大学院に入学してしまったが，大学院に入学した年のオリエンテーションで伊東先生からあらためてこの言葉をお聞きした時に，今こそ変わらねばと強く決意したのを覚えている。大学院時代は先生のこの言葉を忘れずに，今から変わるんだという思いを常に持ちつつ頑張ることができた。正直，この言葉がなければ学部の頃と同じくただ漫然と大学院生活を送ることになり何も変わらない日々だっただろう。私にとって伊東先生のこの言葉は常に前向きに進むこと，何事も遅いという事はないということを教えてくれた。

私が教員になってからを振り返ると，先生には4月に正式採用される前からあれこれと教室の仕事や仕組みを教えていただいたり，他の先生方と同じようなペースで仕事ができるようにとご配慮いただいたりと常に気にかけていただいた。特に初めての教員生活という事で，ゼミの進め方もわからない私に伊東ゼミの年間の講義方法を説明してくださったり，大学内の仕事の多くを教えてくださったりと大変助けていただいた。

また教え子という立場から同じ教員という立場に変わってからは，いつもにこにこして優しいながらもメリハリのある先生を見習い自分もあのような教員になりたいと思ったが，上手くいかない事も多くあった。伊東先生は学生に対してできなかった事，やらなかった事はもちろん反省するべきと教えるが，さらに反省を活かしてこの先どうすればいいのかを一緒に考えてくれる。同じような事を自分でやろうとするといかに大変かを痛感し，上手くいかない事も多くあった。そのような時に先生はいつもアドバイスをくれ手を差し伸べてくれ，教員としての基本を教えていただいた。

教室運営という点でいえば，同じ教員となってから先生がいかに様々な点に気を配り，準備し，次善の策を考えているのかに驚いた。学生，他の教員，事務との間に先生の気配りがなければこれほど円滑に教室がまわる事はなかっただろう。同じ教員としては4年間だけであったが，先生のやり方を間近で見ることができたのは私にとって大変勉強になった。ここまでの気配りが私にできるか，先生がご退職された後が心配になるほどだが，後数年は関西大学で非常勤講師として教鞭をとられるのでぜひ今後もご指導・ご助言をいただければと思う。

（まつい　こういち：本学准教授）

伊東理先生ご退職記念事業のお知らせ

▪ 最終講義 ▪

日時：2019年3月23日（土）14時～15時30分（受付13時30分～）
講義タイトル「私の研究を振り返って」
会場：関西大学梅田キャンパス　8階大ホール　＊1階 TSUTAYA のエレベータで8階までおあがり下さい。

▪ ご退職記念パーティー ▪

日時：2019年3月23日（土）16時～18時
場所：関西大学梅田キャンパス　8階大ホール　※受付は8階です。
会費：1万円　ブッフェスタイル　パーティ参加者や拠金をいただいた皆様には，後日，『ジオグラフィカ千里　第1号』を郵送する予定です。

▪ 拠金のお願い ▪

一口2,000円から拠金をお願いしております。2口以上の拠金をいただいた方には，伊東先生退職記念号を兼ねる論文集『ジオグラフィカ千里　第1号』を送付させていただきます。口座は新たに，ゆうちょ銀行に「関西大学地理学教室退職記念事業会」として新設いたしました。

振替口座：00960-0-196189（関西大学退職記念事業会）
他の金融機関からの振込　店名：〇九九店　預金種目：当座　口座番号：0196189

■ □教え子から□ ■

伊東先生の思い出

立見　淳哉

1996年4月，史学地理学科に入学しました。学生時代を通じて，「優等生」とはかけ離れた生活を送りました。それでもなんとか卒業し，次の段階に進むことができたのは，地理学教室の先生方の温情に加え，伊東先生の存在が大きかったのではないかと思います。当時，伊東先生は着任されて間もなく，大先生方の中では若々しい印象がありました。私にとっては，学生のキャラクターを否定せず，やる気を引き出しつつ，それでいて必要な軌道修正も行ってくれる先生だったように思います。

講義の中で課されたレポートを褒めていただいたことがあります。それは，読みかじったばかりのデビット・ハーヴェイを引用して，少し背伸びをして書いたレポートでした。今から読めば目も当てられないような内容でしょうが，それでも嬉しく感じ，励みになりました。伊東先生は，全体を通じて非常に真面目で誠実な印象をお持ちでしたが，巡検先である先生の放ったジョークが沈黙を招いたときに，その意味解説をされるユーモラスな一面も持ち合わせておられました（それによって沈黙は打破されませんでしたが）。

ゼミ教員の村上雅康先生（工業地理学）がご病気のため途中で退職されたことで，卒業論文を伊東先生に指導していただきました。卒論テーマは二つの寒天産地の発展の仕組みを比較するものでした。丁寧な添削をしていただき，論文執筆のイロハを学ぶことができました。卒業間際に，伊東先生の計らいで，当時，大阪府大の助手をされていた水野真彦さん（経済地理学）からアドバイスをもらったことがありました。「伊東先生からとても丁寧な手紙があって恐縮した」という話を，ずいぶん経って，水野さんから伺いました。研究生活の入り口で幸運にも良い先生に巡り合うことができたと感じます。

（2000年3月卒業，大阪市立大学・准教授）

■ □教え子から□ ■

拝啓，伊東理先生

本岡　拓哉

伊東先生と初めてお会いしたのは1999年の春だったと思います。もう20年も経つのですね。

最初の先生の講義だったでしょうか。休学からの「出戻り」のやさぐれた私を見かねた先生は授業終了後に，「一度，研究室に来なさい」と声をかけていただきました。言葉にはしていなかったと思いますが，きっと先生にSOSを発信していたのでしょうね。先生がそれを見逃していたら，どうなっていたか。大袈裟かもしれませんが，違う人生を辿ることになったのでしょうか。

その後，先生の研究室を訪問し，漠然とはいえ研究者志望だったこと，けれど当初所属した日本史学には馴染めなかったこと，そしてヤケになっていることをお伝えしたと思います。それに対して，先生は「だったら地理学でそれを目指したらいいんじゃないか」と言ってくださいました。

当時，失礼ながら地理学には全く興味ありませんでしたが，先生からのお声がけは本当に嬉しく，私をもう一度奮い立たせくれました。その後，用もなく先生の研究室を訪ねてはなにかお話したり，書架に並べられた本の借り出しもさせていただきました。時に先生のオススメを無下にし，人文主義やラディカル系に関心を示す私に辟易されていたかもしれませんが，先生とのやりとりは本当に楽しかったですし，その経験が私の研究の礎にもなっております。

私の記憶は「正しく」ないことも含まれていると思いますし，先生がどのように思われていたかもわかりません。ただ，先生が私を地理学に導いてくださったことは間違いありません。心から感謝しています。ご退職されること寂しく思いますが，本当にお疲れさまでした。

（2003年3月卒業，立正大学・特任講師）

■ □教え子から□ ■

伊東理先生のおかげです

片上　廣子

伊東理先生のご指導のおかげで，私は文学研究科より博士（文学）の学位を授与していただくことができました。約3年間，私はいつも午後1時きっかりに先生の研究室にお邪魔をしました。先生は，私の拙い文章を厳しく修正してくださいました。時間に厳格な先生は，時間変更のときは，必ず私の自宅の電話に連絡をくださいました。論文提出期限が迫る中，計画通りに進まない私に対し，先生は，「えいやっ！」と思い切って書き上げ，提出しようと，背中を押してくださいました。とても嬉しかったです。

難関は，最終試験（口頭試問）。先生は何と，「審査の流れ」と留意事項という台本（シナリオ）まで作ってくださいました。先生が書いてくださった台本の通り，私は進めていきました。そのおかげで，学位論文の審査および最終試験に無事合格することができました。

そして学位記授与式。先生は大変お忙しいにもかかわらず，わざわざご臨席くださいました。この上ない喜びと感激でいっぱいでした。このとき，先生と2ショット写真を撮らせていただき，ありがとうございました。式典後，キャンパス内のレストランでご一緒したランチの美味しかったこと，今でも覚えています。

先生のご退職にあたり，改めて心からお礼を申し上げます。

（2001年3月博士課程後期課程単位取得，龍谷大学非常勤講師）

■ □教え子から□ ■

大阪のお父さん伊東先生へ

ポテラ水上　洋子

私は岐阜・揖斐川町の出身ですが，地元のガソリンスタンドのご主人が，「ミズカミさんとこのお嬢ちゃんは，お母さんのお腹の中で，男の子になり切れずに生まれちゃったけど，男の子みたいに生きんと，女の子みたいに生きな。」と，諭したほどのはみだし者です。

20代後半の頃に，岐阜から伊東先生にお会いしに行った時も「フランスへ留学なんて，音楽で留学なんて」と説教されているうちに，「伊東先生，ところで地元のいびがわマラソンにトレーニングもせず参加して，走れる地元の人がおらんから，今年私が姉妹都市のアメリカのセントジョージ・マラソンへ派遣されました」と言ったら，伊東先生はふいに頭を抱えて，「ミズカミの才能がミズカミの人生の邪魔をする…，あ～，本音を言ってしまった…」とおっしゃったのは，一体あれは何だったのですか。

クラシック音楽家は才能がないとなれない。私の姉も，高校は音楽科に進んだけれども，その後音楽を辞めてしまった。才能って何だろう。30歳になった時，今まで音楽に進むのを反対されるのを大いに我慢してきたので，自分にご褒美と思ってフランス・ブルゴーニュに渡りました。なぜフランスか。ドビュッシーやラヴェルみたいな，現代人の心をいつまでも打つ作曲家も輩出しているし，またフランスの公立音楽院はどんな年齢の初心者でも受け入れてくれるからでした。音楽院に入学すると，教員が「音が間違っている」と叱れば叱るほど，子どもが一層音を間違える現実を目にしました。ならば，正しい音とはどれほど美しいものなのか教えて下さいよ。音楽院の先生方は「エライ目に遭うぞ」と私を避けるようになりました。

自分の父よりも父親みたいな，伊東先生の存在があったからこそ，豊かに生きています。また遠くから，叱って下さい。

（2005年3月卒業，旧姓：水上）

■ □教え子から□ ■

井の中の蛙，大海を知らず

吉兼　崇博

博士前期課程の2年間，関西大学地理学教室にて，伊東理先生にお世話になった吉兼と申します。私は，学部は奈良大学に所属し，故高橋誠一先生に歴史地理学を学んで，地理学の楽しさを感じ，都市地理学のゼミに所属し，ゼミの實教授から伊東先生をご紹介いただき，2004年4月に関西大学大学院に入学しました。

しかし，伊東ゼミ生や学部生のレベルが予想外に高く，調べてきたことに厳しい指摘をされること，他のゼミ生の発表内容が高度すぎて，高確率で眠気を覚え，さらには地理学・地域環境学実習で学部生の方が，出来が良いというありさまに…。奈良大学を好成績で卒業した私には，まさに「井の中の蛙，大海を知らず」ということわざがピッタリでした。

若気の至りで頭にきたことは幾度とあり，不出来な私でしたが，伊東先生は厳しく，時には親身になって，最後まで見捨てずに修士論文の指導をしていただきました。

また，研究に限界を感じていたことに気づかれ，博士後期課程進学ではなく就職をするようアドバイスもしていただき，2年間民間企業を経験したのちに，公務員の職に就くことができました。

試行錯誤の2年間でしたが，伊東先生や同期，地理学教室のメンバーに支えられ，無事に修了することができました。

年月はかかりましたが，伊東先生は私の将来のことを考えていただいていたなぁと感じることができるようになりました。伊東先生，本当にありがとうございました。また，長年お疲れ様でした。ご退職されるのはさみしい限りですが，お互いに元気で再会できることが楽しみです。

（2006年3月博士課程前期課程修了，山口県和木町教育委員会体育センター）

■ □教え子から□ ■

いつも紳士的な伊東先生

舟越　寿尚

初めて伊東先生とお会いしたのは，2003年の9月頃だったと思います。

当時，追手門学院大学文学部アジア文化学科で学んでいた私は，卒業後は地理学で専門的な研究してみたいと考えていました。そんな折，指導教官であられた南出眞助先生にご相談したところ，地理学の学科や専修のある大学で，改めて勉強してみてはとの助言をいただき，関西大学のオープンキャンパスに足を運んだことがきっかけでした。偶然にも伊東先生が相談会場におられ，にこやかで親身になってお話を聞いてくださいました。この時，こんな紳士的な先生のもとで，研究できたら良いなぁと感じました。

その翌年の2004年，関西大学へ3年次編入させていただけることになり，念願かなって4年生では伊東ゼミで学べることになりました。以来2015年の大学院博士課程後期課程単位取得退学まで，長きにわたって伊東ゼミでお世話になりました。

海外へ調査に行かれる折は現地でご一緒させていただいたり，地理学実習で長年TAを努めさせていただいたりと，国内外たくさんのまちを先生と訪れました。イギリス湖水地方，ドライブで立ち寄った田舎町でランチ，（意外に）とても美味しかったローストビーフとヨークシャープディングの伝統的なイギリス料理。ニュージーランドのオークランド，太平洋諸島からの移民の方々が住んでいる郊外のカラフルなまち。呉，島田，帯広，そして鳥取。教室にも様々なことがあり，橋本征治先生のご退職や髙橋誠一先生とのお別れなど，涙される伊東先生の姿を拝見した事，筋の通らない事や理不尽な事に対して，はっきりと意見を示される場面もありました。私は，特に大学院に入ってからは，なかなか期待に応えることのできない出来の悪い学生だったと思います。しかし，先生はどんな時も温かいまなざしを送ってください

ました。大森海苔のふるさと館へ就職が決まった時は，我が事のように喜んでくださいました。

喜怒哀楽を大切にされながらも，いつも紳士的な伊東先生。東京での忙しい日々の中，ご一緒できた時間を懐かしく思っています。

（2006年3月学部卒業，2009年3月博士前期課程課程修了　2015年9月博士後期課程課単位満了退学，大森海苔のふるさと館学芸員）

■ □教え子から□ ■

伊東先生への感謝

松原　光也

伊東先生と初めてお会いしたのは，関大の博士後期課程の受験について話を伺いに行ったときでした。当時日本ではまだ導入事例のないLRT（Light Rail Transit）の研究を希望する旨を相談したところ，ロンドンやマンチェスターなど海外の事例を踏まえ，地理の分野で研究するなら，もう少し広く日本の都市鉄道の事例も含めて地域との関連を研究してみてはどうかとご助言くださったのがご縁で，関大にお世話になることになりました。日本の路面電車についてはよく調査に行っていたものの，先生のイギリスの研究に触れているうちに，やはり海外のLRTも見ておかなくてはと思うようになり，ストラスブールやフライブルクに視察に行くことにして，ゼミで報告できたのも良い経験となりました。

しかし，博士論文の作成に関しては，交通まちづくりの市民活動を行いながらだったこともあり，遅々として進まない状況に，根気強く指導くださりました。また，文章のつながりや，表現方法も細かく指導いただいたおかげで，5年はかかりましたが，博士論文を提出することができました。本当にありがとうございました。まだ，先と思っておりましたが，退職されると聞いて寂しい思いです。これからはご自身やご家族のための時間をお過ごしいただきたいと祈念しております。

（2009年3月大学院博士後期課程修了，WILLER TRAINS株式会社）

■ □教え子から□ ■

忘れられない言葉

飯野　茉尋

伊東先生，退職おめでとうございます。

先生には，沖縄今帰仁村での実習調査，ゼミなどで大変お世話になりました。ありがとうございました。

私は自由奔放な学生で，4回生の秋学期から2年間休学しました。私はその間に，アメリカでのインターンシップや資格取得などを経験し，自分の進路について考えました。復学し，小学校教員になるために大学院に進学することを先生にお話した時のことです。先生は私の話を聞き終えると，「君は，自分の人生を切り開いていく人やね。」と，おっしゃいました。嬉しくて，誇らしい気持ちになりました。その後，私の人生で，新しいことに挑戦する時や道に迷った時，先生のあの言葉が頭にふと浮かんでくるのです。すると，強く生きていけるような気持ちになります。一歩踏み出す勇気がでます。そんな学生もいることを伝えたいと思いました。

伊東先生の今後のご健康と，ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（2011年3月卒業，大阪市立小学校教諭）

■ □教え子から□ ■

伊東先生の口癖

齋藤　鮎子

伊東先生の口癖は，「大学は変わる最後のチャンスです」だった。これは，大学は社会人になるまでの最終教育機関であり，同時に社会人になるまでの最終モラトリアムであることを意味する。寝坊，提出期限を守らない，無礼な態度などのさまざまな学生の学業・生活態度に対して，「今は許されるが，社会に出るまでにはしっかりしようね」という優しいお言葉であり，「今変わらなければ，一生変われないかもしれないぞ」という厳しいお言葉でもある。

私は学部を卒業して博士課程前期に進学，修了後は一般企業に就職した。そこで伊東先生の口癖を何度も思い出すこととなる。特に寝坊しそうになった時は，伊東先生の顔とあのお言葉が浮かんできた。また，日常の何気ない場面においてでも，ああ，私は大学で変われなかったのか，チャンスを無駄にしてしまったのか…と，考えることもあった。

就職後1年で博士課程後期課程に進学し，本当に最後の「変わるチャンス」が巡ってきた。後期課程在学中は，学部・前期課程よりも伊東先生と接する機会が多く，学業面だけではなく，生活面などの個人的な相談にも親身になってくださった。お忙しいのにも関わらず，何度も相談に乗っていただいたことは，感謝してもしきれない。

伊東先生のお人柄は，学部の頃にはシビアで厳しいという印象だった。博士課程からは，シャイでとても優しいけどシビアという印象に変化した。恐らく学部の頃は，あの口癖を私が重く受け止めていたからこのような印象になったのかもしれない。しかし，シビアという面は変わらない。伊東先生のいつも時間に正確で，決まりごとは必ず守る，社会人の見本となるような立振舞を尊敬している。伊東先生のシビアは，ご自身で学生時代に何度も「変わる」を繰り返し，ご自身を高められた結果の表れだと思う。だから，あの口癖は重みがあり忘れられない言葉になったのだ。

長い間ご指導いただきましてありがとうございました。心より感謝を込めて。

（2009年3月卒業，2011年3月博士課程前期課程修了，関西大学大学院文学研究科・博士課程後期課程）

■ □教え子から□ ■

午後の紅茶

松井　幸枝

きらめく新緑の桜並木にかがやく新入生たち。何年かぶりに大学を訪れた卒業生の私は無職を極めていた。強がっていても，ぼんやりとした不安が絶えずつきまとう。向かう先は先生の研究室。私の取得予定の資格の件で話がしたいと呼ばれたのだ。私は決して真面目な学生ではなかった。一方で先生はいつも正しかった。正しく清くて厳しかった。思い出は美化されるものなので，厳しく怖い先生に変化していた。恐る恐る研究室のドアをノックする。「ああ，よう来なさった佐々木さん」。本だらけのこの部屋だが，その本たちは几帳面に整列している。窓にかかったブラインドから光が落ちる。私が着席すると先生はイギリスの紅茶を淹れてくださった。先生からカップが差し出される。紅茶を口につけて「会社辞めるとかダメダメですわ」と私が嘘の冗談を言う。「こらっ，あんまり自分を卑下しなさんな。貴女は気ぃ遣いやからしんどいやろうなあ」。厳しさは優しさがないと成立しない。そうだ，先生は誰よりも優しかったのだ。

先生はそのあとに樋口先生と私を再会させてくれた。思い出話に花が咲くとはこのことだなって，私は自然と笑顔になった。あの光の落ちる研究室で，お土産のクッキーとイギリスの紅茶，3 人でなんともささやかな午後のお茶会をした。あのときの光景は私の中に大切にしまわれている。ふとした日常の中で先生の言葉が思い出される。そのたびに私は前を向いて，もう一度もがいてみようかなと思ったりするのだ。

（2012 年 3 月卒業，旧姓佐々木）

■ □教え子から□ ■

伊東先生へ

栗林　梓

伊東先生の個研に初めて入れていただいた日のことを今でも覚えています。私がまだ一回生だった時，「地理学の勉強がしたい」と申し出た私に対して『現代都市地理学』（原書房）という本を貸してくださいました。地理学専修の配属になるまでも，それから何度か地理学関連の本を貸していただき，当時の私に地理学の面白さを気づかせて下さったのは他でもなく伊東先生です。今の私の原点でもあります。

それからというもの，当時体育会に所属していた私は学問よりも部活動に割く時間が多くなり，部活動の件では何度も伊東先生にご迷惑をおかけしました。それにもかかわらず，伊東先生は地理学や大学院進学に対する私の気持ちを真摯に受け止めて下さり何度も相談に乗って下さいました。当時の私の学問に対する姿勢は周囲から呆れられて当然のものだったかと思いますが，卒業まで私を突き放さずにいて下さったことに心より御礼申し上げます。

大学卒業後は伊東先生の直接の指導から離れることとなりましたが，先生の教えは今も私を支える大切なものとなっています。これからは目に見える結果で先生に恩返しさせていただけたらと思います。末筆にはなりましたが，今後の伊東先生のご多幸をお祈り申し上げます。

（2018 年 3 月卒業，名古屋大学大学院・環境学研究科博士課程前期課程）

■ □教え子から□ ■

伊東先生との思い出

平内　雄真

伊東先生，この度はご退職おめでとうございます。伊東先生との思い出を振り返るにあたり，やはり一番に出てくるのは，私が大学四回生の時に卒業論文に精を出さずに叱責されたことです。あの頃の私は大学院試験に合格し，卒業も近かったのでただ遊びたいという気持ちが強く，大学院へ進学する身の程を全くわきまえていない行動に出てしまいました。また，大学三回生の時も，論文紹介の際，図表の印刷が薄いことで注意されました。最初は「何でここまで言われるんやろ」って思いましたが，冷静になって考えると，私が今後大学院進学し，研究者の立場になるから体裁や細部まで注意を払へと指摘されたことに気づきました。元々私が大学院進学するきっかけとなったのは，大学二回生の巡検，秋学期の授業時に伊東先生に「君，センスあるな～」と言われたことです。この言葉は今でも研究でくじけそうになった時，励みにしています。このような伊東先生との思い出は，嬉しい思い出，怒られた思い出など多岐にわたりますが，私の人生を変えた恩師としての思い出には変わりありません。本当にありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

（2018 年 3 月卒業，筑波大学大学院生命環境科学研究科　地球科学専攻・博士前期課程）

■ □教え子から□ ■

伊東先生へのメッセージ

三村　芽依

伊東先生ご退職おめでとうございます。

三回生のゼミでは大変お世話になりました。いつも穏やかで優しい先生の授業を受けるのが好きでした。社会人になった今も楽しかったなぁと思い出します。先生のお陰で素敵な時間を過ごせました。本当にありがとうございました。どうかお体に気をつけて元気にお過ごしください。

（2018 年 3 月卒業）

■ □教え子から□ ■　教養の先生－某授業の最後のあたりの週での座談会－

松川　昭太朗

これは，私が学部1回生の時の話

先生「学校の先生の熱意って，どこで判断できると思う？」

私「……？（なんやろう，わからへんなあ…）」

他の受講生は答えが思い浮かんだかもしれませんが，私にはわかりませんでした。

先生「それはな，その先生が前でしゃべってるときの様子がな，楽しそうにしてるかどうかやとおもうんや。楽しそうにしてる先生はええ先生じゃないかとぼくは思うねん。」

私「（なるほど…！！）」

ほかにも，「人とつきあう前に相手を見極める点」「大学の先生が受講生集めでやってしまいそうなよくない手段」「退職後に地理とどう向き合うか」など，多くの教養やアドバイスいただけたことにはとても感謝しています。

もちろん先生とは地理学に関しても学部のときからお世話になりました。学部の卒業論文では副査をしていただき，自分に足りないところや欠点を指摘していただいて，気づかずに出したことの罪悪感を覚えつつ，次に向けたやる気のもとをつくっていただけたことは私にとってはとてもプラスでした。先生の研究は私のものと関連する点がいくつかあったものの，授業の関係やクラス分けで疎遠になってしまい，気が付けばアドバイスを頂ける機会が少なくなってしまっていたことは残念した。

地理の一大研究者としてはもちろん，それ以外の生きていくうえで教養となるアドバイスをたくさんいただける先生でした。願わくは退職前に教養の講演をしていただきたいところです。ありがとうございました。

（2018年3月卒業，本学文学研究科・博士課程前期課程）

■ □教え子から□ ■　最後のゼミ生として

張　頴知

伊東先生，退職おめでとうございます。先生とご一緒に卒業できることは幸いです。

時間が経つのは早いもので，はじめて伊東先生に会った日から，あっと言う間にもう2年が過ぎました。その日，先生は一度も研究室を訪ねたことがない私のことを心配し，迎えに来てくださりました。その瞬間，伊東先生の暖かさを感じました。

その後，人文地理の講義のみならず，ゼミ中も優しく様々な知識を教えていただきました。授業を通して現地調査もできたことは，留学生の私にとっては新しい体験でした。自分の目で確かめて様々な面に溢れるようになりました。伊東先生とご一緒した千里ニュータウンの巡検や尾道市の調査は楽しかったです。千里ニュータウンで歩きながら話しをされる仕草や尾道で土地利用調査と併行して写真を撮られるなど，伊東先生の姿が印象に残りました。先生のおかげで現地調査の魅力を感じ，自分は伊東ゼミに入ったことがいちばん良かったと思いました。

わずか2年間，短い時間でしたが，伊東先生のもとで勉強できたことを心より感謝しています。

（2019年3月　博士課程前期課程修了）

地理学教室50周年記念事業のお知らせ

木庭元晴先生が2019年度末をもって関西大学文学部をご退職なされます。昨年12月の同窓会の役員会で専修から話題に出して，議論いただきました。先生は最終講義やご退職記念パーティーは固辞されました。それに代わって，渡邉登同窓会長ほかの発案で，教室創設50周年記念行事を今年の12月14日（土）に千里キャンパス（場所は未定）で実施することに決定いたしました。関西大学地理学教室が1967年4月1日に発足して，2019年で創設52年となります。この日は例年，関西大学地理学研究会の年次例会（今年4月以降は千里地理学会と改称予定）と卒業論文セミナーを午後に実施してきました。これを拡大する形で，午後1時から千里山キャンパスで教室を借り切って50周年記念事業の開催を予定しています。

また，専修としましては，伊東教授のご退職を記念して『ジオグラフィカ千里』第1号を刊行する予定です。この続刊の第2号を，木庭教授御退職記念および教室50周年記念号として，今年の12月の記念大会にあわせて刊行を考えています。これも大学の出版助成補助をうけての刊行です。　（野間晴雄・松井幸一）

地理学教室50周年記念行事（予定）

日時：2019年12月14日（土）13時～17時　千里地理学会 第1回年次会
17時30分～19時30分　記念祝賀会（学内を予定）

内容：研究発表，実習調査報告，地理学教室50周年記念シンポジウムなど
（詳細は次号）

会場：関西大学学内で教室を調整中（詳細は次号でお知らせいたします）

関西大学回想

瀬原　雅典

昨年九月，教員免許更新講習の際，講座で木庭先生にお目にかかり，大学卒業して以来30年以上，すっかり白髪にもなった私を，先生は覚えておられるのだろうかとあいさつをしたところ，「覚えているよ」との言葉にうれしさを感じました。講義の合間に，昔話に花が咲き，一日学生に戻った気分で過ごしました。

私が関大で学ぶのは三度目になります。最初は学生の時，特に目的を持って入学したわけでも無く，上井先生の講義が面白そうだという理由で，一年間ご教授をいただきました。二年時は横田先生のご教授を受けましたが，周りは熱心に古代史を学ぶ学友ばかり，「これはえらいことになった」と思った私は，他が対象としない，有史以前についてゼミ論文を書いた次第です。三，四年次には劣等生の私を柿本先生が拾ってくださり，卒業論文も漁村の信仰についてまとめさせて頂きました。

二度目は，1999年に研修生として半年間の機会をいただきました。前年が柿本先生のご退職の年に当たり，劣等生だった私を気にされていたのでしょう，「もう一度関大で学んでみないか」とのお誘いをいただきましたが，公務の都合で果たせず，翌年にそれが叶ったというわけです。そこで，小山先生を紹介していただき，先生のもとで近現代史を学ばせて頂きました。

そして三度目が，今回の教員免許更新の講座というわけです。

現在，私は郷里の鳥取で中学校教師をしておりますが，日々生徒たちへの指導の難しさを感じながら過ごしております。しかし同様に，劣等生でした私に対しても，関大の先生方は大変ご苦労されたことでしょう。先生方のお人柄と学びに対する意欲によって，目標を持つことができた私としましても，先生方から頂いた経験を財産に，生徒たちと接していこうと思っているところです。

（せはら　まさのり：1986年度卒）

〈同窓会事務局ニュース〉

・2018年12月8日（土）に関西大学地理学研究会に先だって，地理学実習室で，研究会・同窓会幹事会が開催され，その後の総会で2018年の決算が承認されました。

・2019年4月1日より会計年度をあらため，従来の1月1日～12月31日から4月1日～3月31日に変更する事が承認されました。2019年1月1日～3月31日の会計決算については次号にてご報告します。

・2019年11月16日（土）～18日（月）に関西大学千里山キャンパスにて人文地理学会大会が開催されます。16日朝にミニ巡検（千里山住宅地，豊津～垂水神社などの2コース），午後1時から特別発表（4件），千里地理学会として協賛の予定です。木庭元晴教授が特別研究発表の予定です。詳しくは人文地理学会のホームページ，雑誌『人文地理』をご覧下さい。

・2019年12月14日（土）には関西大学地理学教室50周年記念行事を予定しています。教室，同窓会，千里地理学会の共同で開催予定です。2020年3月末には関西大学を木庭教授は退職予定です。その記念行事もかねております。詳細については次号をご覧下さい。

・次の4名と1団体からご寄付をいただきました。大倉俊，鈴記裕幸，曽我傑，武田充，地理学教室（50音順・敬称略）

・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度，半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス［kandaichiri@gmail.com］までご連絡ください。また，会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願いいたします。

（松井幸一）

■ □秋の日帰り巡検報告□ ■

猪名川周辺の探索と池田市を歩く

天野　奏

10月7日（日）に行われた，「猪名川谷口の池田市とその周辺を歩く」をテーマとする巡検に参加しました。10時にJR福知山線の北伊丹駅からスタートし，猪名川，ダイハツ町，カップヌードルミュージアム，阪急池田駅，室町住宅地と呉服神社，小林一三記念館，五月山と巡りました。巡検前日は台風の心配もありましたが，当日はよく晴れた日で，絶好の巡検日和となりました。北伊丹駅周辺は，工場と住宅地が駅の東と西で分けられたように存在し，また南東方向に少し離れた場所に大阪国際空港が位置しており，自分が想像していたよりもはるかに航空機の騒音が大きかったです。

次に，猪名川を越えて，ダイハツ工業株式会社の本社工場へ向かいました。1907年に創設された日本で最も歴史の長い量産車メーカーで，当初は「発動機製造株式会社」として創立され，工場の動力として用いられるガス燃料の内燃機関の製造を手掛けておりました。また，ダイハツの由来が，発動機をどこで製造したかを区別するために，当時の顧客の方が「大阪の発動機」と呼び，やがてそれが詰まって「大発（だいはつ）」と呼ぶようになったことを知った時はとても驚きました。やがて自動車産業で一躍有名になり，今でもこの本社工場一帯の地名は「ダイハツ町」という表記になっています。

次に，池田市を北に進み，大阪園芸高校を横に見ながら，日清食品のカップヌードルミュージアムを訪れました。台湾出身の安藤百福が創設したこの会社は1948年の創業です。彼が終戦直後の食糧難の時代に，人間にとって一番大切なことは「食べること」だと考えて創設されました。「お湯があれば家庭ですぐに食べることが出来るラーメン」は，今でこそ当たり前のように存在しますが，当時はとても画期的な食品であったのだろうなと思いました。このミュージアムを訪れて，カップヌードル（インスタントラーメン）の歴史を知り，発明・発見の大切さを改めて感じることが出来ました。

その後，阪急池田駅で一たん昼食休憩のため解散した後，再度集合して池田駅から線路に沿って西にある呉服神社を訪れました。応神天皇の時代に呉の国からこの地に渡来し，織物，染色の技術を日本に伝えたとされる呉服（くれはとり）を祀る神社でした。日本に機械裁縫の技術が伝わり，男女，季節，階級それぞれに応じた衣服が広まったことのルーツが，この神社にあると言われていました。この神社を取り囲むように開発された分譲住宅地が池田室町です。阪急の前身である箕面有馬電気軌道（1907年設立）が人口の少ない沿線に大阪への通勤者のために1910年に開発した1区画100坪の和風住宅です。

カップヌードルミュージアムと合わせて，人間が生活するために必要な「衣食住」のうち，「住」と「食」がこの池田市から広がっていったと考えると，何だか感慨深いものがありました。

その後，阪急宝塚線を越えて池田の栄町商店街のアーケードを抜けて，五月山山麓にある小林一三記念館を見学しました。阪急電気鉄道，宝塚歌劇団等をはじめとする阪急東宝グループ（現・阪急阪神東宝グループ）の創業者である彼の旧邸「雅俗山荘」にルーツをもつこの建物では，小林一三の生い立ちや彼の事業の実績を知ることが出来ました。特に，自分が普段利用している阪急電気鉄道の歴史を知ることが出来たのは，とても貴重な経験を得たと思いました。その後，五月山公園から池田城をのぞみながら下って，能勢街道との交点である職安前で解散しました。

今回の巡検は，北摂の池田市とその周辺を探索しました。猪名川の谷口集落として発展したこの地には，自分がまだ見たことのない，感じたことのない新しい発見がありました。このような大変有意義で貴重な経験をすることを可能にして下さった皆様，誠にありがとうございました。この経験をこれからの勉学の糧にしていきたいと思います。

（あまの　そう：本学2回生）

カップヌードルミュージアム大阪池田

2018年度 卒業生・修了生からのひと言

〈卒業生〉

家田涼平
実習調査等を通して自発的に学び，行動に移す大切さを実感しました。仲間や先生方からの支えも多くいただき，深く感謝しています。ありがとうございました。

伊藤純弥
仲間と調査やフィールドワークを行なったのが楽しくて，あっという間に時間は過ぎました。自分を支えて下さった皆様，本当にありがとうございました。

岡村裕子
地理学専修を選んで良かったなと思っています。現地に行き，さまざまな人と関わるなどたくさん貴重な経験ができました。ありがとうございました。

蔭山胡桃
地理学を通して様々な事象を見るのは興味深かったです。現地の調査もデータの分析も充実したものでした。お世話になりました。

岸本夕佳
尾道市での実習調査やベトナムでの実習など，地理学で多くのことを学ぶことができました。お世話になった先生方，同級生の皆さん，本当にありがとうございました。

■ □実習調査報告□ ■

富山県高岡市での実習調査

大浦　拓

私たちは，2018 年 10 月 9 日から 10 月 13 日までの 4 泊 5 日間で富山県の高岡市での実習調査を，野間先生と松井先生と大学院生の方々の指導の下で行いました。1 日目は，午後に高岡市役所に現地集合し，市役所の方から高岡市の現状や課題，取り組みなどについてのお話を伺いました。その後は各々の班で別行動をした後，旅館に向かいました。実習中にお世話になった「角久旅館」は高岡市内では有名な旅館でで，木造 2 階建て，明治元年に創業された旅館です。奈良の大仏や鎌倉大仏と並ぶ日本三大大仏としても名高い高岡大仏の門前にあり，とても趣深い旅館でした。

2 日目から 4 日目は各班に分かれて調査に向かいました。班の研究テーマは「新高岡駅周辺の変容」・「高岡の歴史的景観と観光」・「高岡市の地場産業」・「伏木富山港の地形と歴史」・「万葉線の現状と課題」の 5 つでした。

私の班は「伏木富山港の地形と歴史」でしたので，高岡市の中心市街地からは少し離れた伏木地区に向かいました。伏木は古代には越中国の国府が設置され，江戸時代から明治時代にかけては自ら船を所有し交易業を営む有力な船問屋が台頭し，北前船交易により大いに栄えた町でした。伏木では北前船資料館やコミュニティーセンターなどの職員の方や住民の方にお話を伺い，貴重な情報や資料を教えていただきました。また，その他の班は新高岡駅の近くのイオンでアンケートを行い，万葉線という第三セクター鉄道の利用客変化などを調査しました。4 日目の夜には，高岡市内の居酒屋で打ち上げコンパを全員で行いました。

最終日は全員で貸し切りバスに乗り，富山新港（海王丸パーク），伏木の高岡万葉館を見学しました。能越自動車経由で砺波の道の駅で昼食をとった後は，となみ散居村ミュージアムを見学しました。その後，有名な五箇山の合掌造りの集落に向かいました。私たちが見学した地域は 40 もある五箇山の集落の中でも，ユネスコの世界遺産に登録されている相倉という地域でした。歴史のある集落であるため，昔ながらの風景も美しく，とても独特な空気感で，普段とは違う世界にいるようでした。

事前学習から 4 泊 5 日の現地調査に至るまで，すべてグループワークのため，班で前もって行動の計画を立て，現地の人に前もってアポイントメントをとるなどの大変な作業もありました。しかし，今回の実習調査を終えた今，とても意義のあることだったと実感しています。今回の経験を，今後の地理の研究にはもちろんのこと，ほかの分野にも生かしていけたらいいなと思います。

（おおうら　たく：本学 3 回生）

世界遺産五箇山の相倉集落の合掌集落にて（2018 年 10 月 12 日）

重名ひな子
地理学ではフィールドワーク等を通して学生同士はもちろん，調査地域の方々とも多くの交流があり，とても充実した 2 年間となりました。ありがとうございました。

鈴木涼太
地理学での活動，特にフィールドワークは自分にとってとても良い経験となりました。社会人になってからもここで学んだことを活かしていきたいです。

田所亜未
沢山の人と出会い，フィールドワークなど充実した時間を過ごすことができました。丁寧にご指導下さいました先生方，本当にありがとうございました。

辻村啓悟
フィールドワークや授業，卒業論文を通して，新しい発見の連続であり，同学年との仲もかけがえのないものになったと思います。4 年間お世話になりました。

栩窪亮太
地理学はフィールドワークや，グループでの調査が多いので，現地の人々や地理学の仲間，教授とも楽しく研究が進められます。五感を存分に使えます。

中野さくら
フィールドワークや実習調査など，この専修ならでの活動が楽しかったです。
先生方や友人のおかげで，楽しく実りある 3 年間となりました。

大学院生の研究業績（2018年1月～12月）

海　　思琪　「日本における企業城下町と鉱工業地域社会の形成と衰退，－中国での適用を見据えて－」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（口頭発表），2018年12月1日
「新高岡駅周辺の変容および伏木／富山新港，万葉線の現状と課題－地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告2－」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（ポスター発表），2018年12月1日

桑名　友太　「新高岡駅周辺の変容および伏木／富山新港，万葉線の現状と課題，－地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告2－」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（ポスター発表），2018年12月1日

中井　香月　「高岡市における歴史的文化景観と銅器産業の伝統と革新－地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告1－」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（ポスター発表），2018年12月1日

松川昭太朗　「近代日本での鉄道を使った社寺参詣と海水浴」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（口頭発表），2018年12月1日
「新高岡駅周辺の変容および伏木／富山新港，万葉線の現状と課題－地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告2－」（ポスター発表），関西大学史学・地理学大会，2018年12月1日

安田　えり　「高岡市における歴史的文化景観と銅器産業の伝統と革新－地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告1－」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（ポスター発表），2018年12月1日

山岡真一郎　「（書評）イアン・ゲートリー著，黒川由美訳『通勤の社会史　毎日5億人が通勤する理由』」，『史泉』第128号，2018年7月

李　　嘉文　「京都市における近世から現代への酒造業の立地変動」，2018年度　関西大学史学・地理学大会（口頭発表），2018年12月1日
「高岡市における歴史的文化景観と銅器産業の伝統と革新－地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告1－」2018年度　関西大学史学・地理学大会（ポスター発表）　2018年12月1日

齋藤　鮎子　「（書評）中村周作著『佐賀・酒と魚の文化地理－文化を核とする地域おこしへの提言－』」，『人文地理』第70巻4号，522-523頁，2018年12月31日

お知らせ

伊東理教授の後任として，2019年4月1日から，宮城学院女子大学の土屋純教授が着任予定です。専門は都市地理学，経済地理学，商業地域論です。

原稿募集

『千里地理通信』第82号（2020年3月刊行予定）は「木庭元晴先生退職記念号」として増ページで刊行します。そこに掲載する「木庭先生との思い出」を400字から800字で募集いたします。タイトルはご自由にお決めください。ご寄稿いただける方は，10月末までに教室メールアドレス（kandaichiri@gmail.com）までに原稿を送付してください。氏名，卒業年月，大学院終了年月，所属をかならずお書き下さい。特別号の全体の目次，内容，書式は今回の第80号とほぼ同じです。木庭先生の巻頭文，履歴・研究業績，教員から，教え子からとなります。今回募集するのは「教え子から」の部分で，ゼミが木庭ゼミであるかどうはかは問いません。卒業生ならばどなたでも投稿歓迎です。

二木裕太
伊東先生をはじめ，地理学の先生方，本当にお世話になりました。後輩方へ，4年間の時間は一瞬で過ぎます。後悔しない大学生活にしてください。

八川綾佑
この専修で過ごした期間は，学業はもちろん，人とのかかわりにもとても恵まれたものでだったと感じています。先生方や友人達にはとても感謝しています。

湯河勝平
地理学で過ごした2年間は巡見の報告書など苦労したこともありましたが，仲間と共に完成することができ，とても良い経験になりました。

〈修了生〉

張　穎知
あっと言う間に地理学を学んだ2年間の生活が過ぎました。授業も調査も私にとっては貴重な経験だったと思います。また，先生たちからご指導をいただき，様々な面で恵まれていたと感謝しています。

山岡真一郎
三年間，お世話になりました。土地の歩き方や現地の情報の活かし方，史料の引き方などを学べました。日本や世界の様々な興味深い話を伺うことができて良かったです。

ハノイ理科大学地理学部学生の関西大学でのフィールドワーク研修

グエン・ティ・ハータイン，齋藤　鮎子

2016年から毎年，関西大学の地理学・地域環境学専修の希望する学生や大学院生に対して，ハノイのベトナム国家大学ハノイ理科大学“Vietnam National University, University of Science（通称HUS： Hanoi University of Science）”地理学部で，フィールドワーク・GIS研修を行ってきた。関西大学創立130年の際に集まった寄付金などを原資としたグローバル奨学金を活用した関大とカウンターパート双方が利用できるプログラムである。この3年間の日本人学生の参加者は30名を超え，専修の短期海外研修として定着しつつある。詳しい研修内容は，『千里地理通信』第76号（教室だより）・第77号（安田えり），第78号（松井幸一）にあるので，参照していただければ幸いである。

2018年9月のハノイでの研修中にHUS教員である私（ハータイン）は日本で同様の研修をしたいと松井先生に相談した。それが半年も経たずに実現した。本稿は，HUS地理学部の関西大学での研修内容の記録である。

2019年1月15～24日の10日間，計13名（学部生9名，博士課程後期課程3名，教員1名）が研修に参加した。訪日前には，私（ハータイン）は計5時間ほどのレクチャーを学生に行った。その内容は，主として日本の慣習に関することである。電車に乗る際は整列乗車する，電車の中では大声で喋らない，歩行は右側通行，エスカレーターは右側に乗る…など日本人にとっては当たり前のことである。研修期間中ベトナム人学生たちはこれを忠実に守ってくれたことが印象的であった。というのも，ベトナム留学経験のある齋藤からすれば，ベトナム人のこれらの行動は，ベトナム国内では考えられないため，異様にも感じるからだ。

ここからは18日に齋藤が担当した神戸巡検の内容を報告する。阪急岡本駅から山手に向かい，小林一三，田園都市，芦屋の住宅に関する条例などを説明しながら高級住宅街を見学した。ベトナム人学生たちは，前日に行われた野間先生による京都巡検で見た伏見・宇治のまち並みとは明らかに異なる景観に興味津々であった。説明を必死でスマホにメモし，高級住宅の写真と共にSNSに投稿するなど現代っ子の一面を垣間見ることになった。

徒歩で移動しながら，日本の大学の学費について説明しつつ甲南大学のキャンパスを訪問した。その後，三ノ宮まで移動し，山麓の北野町の異人館街を見学する。神戸の近代史について鎖国から開国への関係で説明すると，「なぜ欧米人は北の山手に住み，中国人は南の海岸部に居住したのか」という地理学部生らしい質問が投げかけられた。居留地で治外法権が認められたのはあくまでも条約締結国の欧米諸国で，清国ではなかった。

その後，元町まで歩き南京町を見学した。ここで各自昼食をとることになった。，中華料理ではなく神戸牛を食べたいという学生が多く，数名の学生と一緒の店で神戸牛を食べた。貧乏学生の齋藤には高価過ぎて手が出ない高級部位を，ベトナム人学生の数名は数百グラム注文し，ビールとともに美味しそうに頬張っていた。昼食後は自由参加として，新交通システムのポートライナーでUCCコーヒー博物館を見学した。車中では，海上を走行していることに感動したようで，スマホで動画を撮影しながら解説をするなど，さながらユーチューバー気取りであった。2019年2月に開業予定のハノイ都市鉄道は全線地下と高架の近代的都市交通システムであり，その期待も込められた撮影であったと感じた。

これまでHUSの研修について18日の神戸巡検を中心に報告した。最後にこれらの研修を通じて齋藤が感じたことをまとめて結びとする。HUSを受け入れるにあたって，最も配慮したことは，学生の懐事情である。齋藤が留学した2013～2014年のベトナム人学生の総体的な印象は，決して裕福ではないが明るさとエネルギーに溢れていた。スマホを所有している学生は少なく，持っていれば“裕福な学生”と認識された。研修を重ねるにつれ，当初抱いた心配は，彼らの金遣いなどを見ると杞憂に終わった。

彼らは近年著しい成長を遂げたベトナム経済を支える働き盛り世代の子女である。ベトナムにおける2018年のGDPは6.98％に達し，2011年に次ぐ高い値となった。ベトナム人学生が社会人として活躍する近い将来も同様に高水準のGDP維持が予想されている。ベトナム人学生たちにとって，日本で研修した経験がきっとベトナムの成長に役立てられると期待している。

（Nguyen Thi Ha Thanh：ハノイ理科大学地理学部講師，さいとうあゆこ：本学博士課程後期課程）

教室だより

■卒論中間発表会

2018年10月4日（土）10時30分から17時まで第1学舎A 301教室で実施しました。発表者4回生で卒業論文を提出予定の14名でした。

■秋の日帰り巡検

2018年10月7日（日）に秋の日帰り巡検が開催されました。「猪名川谷口の池田市とその周辺を歩く」でコースは以下の通り。JR福知山線・北伊丹駅～西猪名公園～ダイハツ町～カップヌートルミュージアム大阪池田（日清食品）～昼食（いったん阪急池田駅で解散）～室町住宅地～池田商店街～小林一三記念館～五月山～能勢街道（解散）。2回生とM 1の海思琪さんが「地理学・地域環境学基礎演習 a, b」の授業のなかで各人がコースの要所を分担して資料を作成し，現地で説明した。OB・OGからは東出修一，矢野司郎，松本太さんの3名にご参加いただき，教員2名，2回生・3回生・大学院生，OBなど，総勢40名近い賑やかな巡検となりました。

■地理学・地域環境学実習

2018年10月9日（火）から13日（金）にかけて，富山県高岡市にて実習調査を行いました。指導教員は野間，松井。3年次生23名と，大学院博士前期課程1年次生5名，大学院研究生1名，ティーチングアシスタント1名，教員2名の計32名で，10月9日～13日に高岡大仏前の角久旅館に宿泊して，合宿形式で市内を調査した。調査内容は，1）新高岡駅周辺の変容，2）高岡の歴史的景観と観光，3）高岡市の地場産業，4）伏木富山港の自然，歴史，伏木祭り，5）万葉線の現状と課題。2019年3月1日に調査報告書『富山県高岡市の地理』を刊行，全国の地理学教室やお世話になった関係者・関係機関に発送の予定です。

■第101回　地理学研究会例会（地理学セミナー）

2018年12月13日（土）15時から18時まで第1学舎3階会議室で，地理学セミナー（研究例会）が開催されました。M 1により高岡市での実習調査の中間報告がなされたのち，松原光也（WILLER ALLIANCE，京都大学大学院交通政策研究ユニット）「交通まちづくりの事例」，立見淳哉（大阪市立大学）「資本主義の変容と都市の役割」，松井幸一（関西大学）「石敢當の伝播にみる形態・意味の変容」の4発表がありました。第1学舎食堂で懇親会が開催され，現役生ならびにOB・OGからも多数の参加をいただき，親交を深める良い機会となった。

■10月28日（日）に関西大学で日本地理学会の地域調査士講習会が開催され，本専修からも学生が受講しました。参加者は約30名。担当は松井幸一。

■2019年4月1日より関西大学地理学研究会は千里地理学会との呼称を使用することになります。そのため，『千里地理通信』の発行元は，関西大学地理学・地域環境学教室とし，そのなかに同窓会，千里地理学会の記事も掲載します。また，学会という名称を用いることで，専任教員，元専任教員，卒業生のほかに，非常勤講師（入会希望者），関西大学の関係者なども加えて，今後はより活発に研究発表会や講演会，エクスカーションなども考えて参ります。とりあえずは2020年3月末までに木庭元晴先生の退職記念の『ジオグラフィカ千里』第2号を教室名で刊行する計画です。本誌12頁の「同窓会通信」もあわせてご覧下さい。

■教員の国外出張

松井幸一：2018年11月2日～5日：シンガポールでの石敢當調査，2018年12月14日～19日：シンガポールでの伝統的地理観の実態調査，2019年2月18日～24日：ベトナムフエでの石敢當調査。いずれも関西大学若手研究者育成経費（1年）によるもので，研究タイトルは「東アジアにおける伝統的地理観に関する地理学基礎研究－ベトナムと琉球を事例に－」。

■ベトナム国家大学ハノイ理科大学地理学部講師のグエン・ティ・ハータインさんが学生12名を引率して，2019年1月15日（火）～24日（木）に関西大学地理学教室を訪問しました。ハータインさんは本学で学位を取得し，3年以上の日本滞在歴がありますが，ほかのメンバーは初来日でした。学生は関西大学のグローバル奨学金の補助をうけての来日でした。1月16日（水）の「基礎演習 b」の授業時間を利用してハータイン講師の「変動するベトナム社会」（英語）の講義のあと，専修の学生・院生との交流，意見交換し，昼休みに実習室で懇談会を開催しました。大学構内の総合図書館とライティング・ラボの見学，京都・伏見・宇治（野間・齋藤が引率），大阪（齋藤が引率），神戸市内（齋藤が引率）のフィールドワークを行いました。ほかに各人でも積極的に研修を行い，どっさりお土産を買い物して帰国しました。その概要は本誌16頁を参照ください。

■2019年11月16日（土）～18日（月）に関西大学千里山キャンパスにて人文地理学会大会が開催されます。16日朝にミニ巡検（千里山住宅地，豊津～垂水神社などの2コース），午後1時から特別発表（4件），千里地理学会として協賛の予定です。木庭元晴教授が特別研究発表の予定です。詳しくは人文地理学会のホームページ，雑誌『人文地理』をご覧下さい。

■本年度の学部卒業生は14名，大学院博士前期課程の修了者は2名です。そのうち情報提供してもらったの就職先はJR貨物総合職などです。卒論・修論題目は次号に掲載します。2月12日に実施した口頭試問の結果，岡村裕子さんの「山城茶業の近年の展開と宇治茶の新たな風景の形成－和束町を中心に－」が最優秀となり，卒業式の際に学部長表彰をうけます。

随想

インターネットでみる古地図

山近　博義

私は，今でこそ，古地図を研究対象の一つにしていますが，以前は，それほど本格的に古地図に取り組んでいたわけではありませんでした。たとえば，授業で紹介する程度の古地図は，自ら現物を精査することもなく，先学が書かれたことを鵜呑みにするような感じでした。しかしながら，最近では，これらの古地図でも，ウェブサイトで高精細画像が公開され，自分で，細かな情報まで確認することができるものが増えてきました。このおかげで，先学たちが言われたことを再確認できるとともに，改めて気づかされることも少なくありません。

このような事例として，国立公文書館デジタルアーカイブから，二つほど紹介してみたいと思います。まず，一つは江戸幕府撰国絵図です。これは，江戸幕府のもと，旧国単位に作成された古地図ですが，元禄期と天保期の国絵図の高精細画像が国立公文書館デジタルアーカイブで公開されています。

以前，大阪府下の自治体史のお手伝いや，古地図の研究会などで，複数の資料館での国絵図やその写しの資料調査に加えていただいたことがあります。国立公文書館も訪れましたが，そのときは，古地図の現物ではなく写真版を短時間閲覧しただけでした。そのため，どのような情報が描かれていたのか，あまり記憶にも残っていません。

ウェブサイトで高精細画像が公開されることのメリットは，部屋に居ながらにして，自分のペースで，必要な情報を確認できることだと思います。パソコンの画面で国絵図を眺めつつ思いついたことの一つが，次のようなことです。私の本務校の大阪教育大学では，大阪府下の公立小学校の先生を目指している人が多いこともあり，授業で，「大和川の付け替え」を紹介することがあります。そのための資料として，河内国の元禄と天保の国絵図を比較することを考えました。大和川の付け替えは1704年のことですから，元禄の国絵図には付け替え前，天保の国絵図には付け替え後の状況が描かれていることになります。旧大和川の河道付近をみますと，元禄の国絵図では，旧河道の川幅を知ることができますし，天保の国絵図では，旧河道沿いの多数の「新田」を確認することができます。これらを確認することで，様々な書物に記述される大和川の付け替えとその後の地域変容の一端を知ることができると思います。

もう一つは，正保城絵図です。これは，17世紀中期に，江戸幕府が，国絵図とともに，諸藩に命じて作成させた城下町の古地図です。城下町研究の基本資料の一つといえるでしょうが，これまで，私自身は，先学の書物で紹介されたものを見たことがある程度でした。また，地理学で近世城下町といえば，矢守一彦先生のご研究が思い浮かびます。そのため，矢守先生が書かれたものを読んで，なんとなく近世城下町を理解したかのようになっていました。

さて，国立公文書館デジタルアーカイブで，正保城絵図を見ると，改めて気づかされる点がいくつかあります。たとえば，この古地図には詳細な軍事情報が記載されたことが指摘されていますが，この点を確認することも可能です。たとえば，堀の深さ・幅・水の有無など，「浅田」「深田」「畠」などの城下町周辺の土地利用，石垣のある箇所の明示などが，こと細かく記載されている点を確認できます。

そのほかには，たとえば，城下町に集住していた家臣団の多様性に，改めて気づかされます。大雑把には，城下町の住人を武士と町人として捉えることも可能ではありますが，正保城絵図では，もう少し多様な表現が見られます。たとえば奈良県の大和郡山の城絵図には，矢守先生の模式図にも出てくる「侍屋敷」「足軽町」のほかに，「かちのもの町」「奉公人町」「台所人町」「御鷹師」などの記載も見られます。しかも，これらの用語は，城下町にごとに多様なものであったことも確認できます。

このように，高精細画像がウェブサイトで公開されることで，インターネットにつながる環境にさえあれば，これまで，あまり目にすることのできなかった古地図にも，自分のペースで向き合えるようになりました。このことは，新たな発見や，古地図の新たな活用にもつながっていくものと期待しています。

（やまちか　ひろよし：大阪教育大学教授，本学大学院非常勤講師）

千里地理通信　第80号
2019年3月20日　発行
関西大学地理学研究会
〒564–8680 吹田市山手町3–3–35
関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：野間晴雄　松川昭一朗
TEL：06–6368–1121（内線4890：大学院生室）
E-mail： kandaichiri@gmail.com
URL： http：//www2.kansai–u.ac.jp/kugeoenv/
郵便振替：大阪00970–4–81149